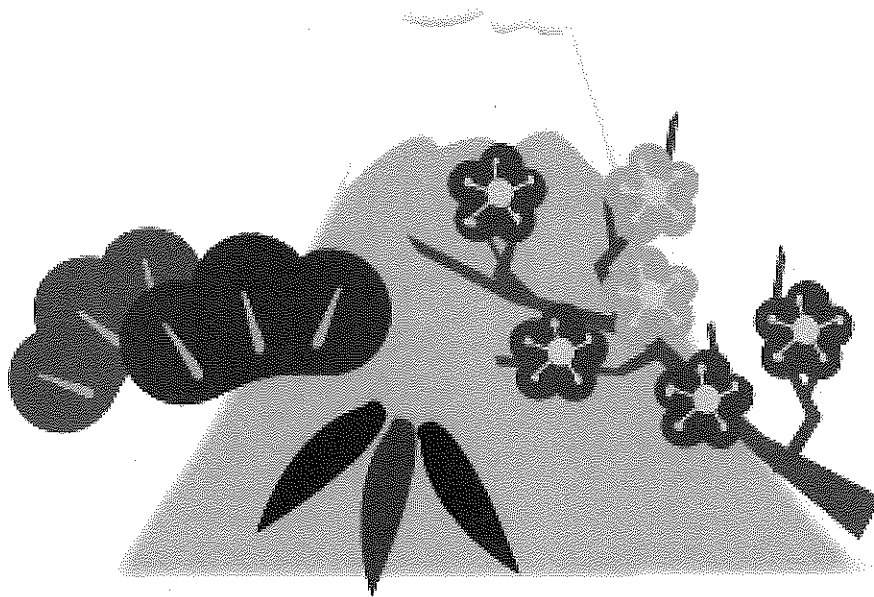


特別支援教育部会

平成28年度

1月例会報告



A-1 ブロック

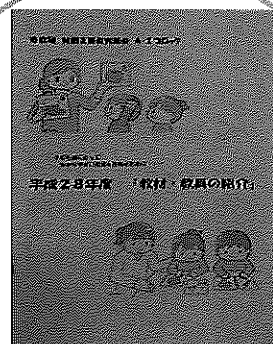
参加人数	51名
1月例会	内 容：施設見学 ① でいまご貳番館（参加者16名） 生活介護事業を中心に、次年度より放課後等デイサービス事業も展開予定。 真砂コミュニティセンターと同敷地のため、複合的な活動、地域に根差した活動を目指している。 所長より 小学校段階では、支援者（教職員等）が味方だということが子どもに伝わるようなかわりを心掛けてほしい。 人から関わられることを疎ましく思うと支援がうまくいかない。 近年の傾向として、食事や排せつ等の自立度が低い子どもが増加傾向のように感じている。 教えることはしっかりと教えていくことが必要である。 ② 畑町ガーデン（参加者22名） 自立支援、就労移行支援、生活介護、施設入所支援、短期入所支援、放課後等デイサービス、相談支援、日中一時支援など、様々な事業を展開している。 地域の方々から理解してもらえるように、イベントを開催するなど、様々な取り組みで地域との連携を図っている。 相談支援について 障害福祉サービスの申請に関わる書類作成にあたっての相談をしている。花見川区を中心に市内の特別支援学級に通う児童の相談支援を多く受けている。 保護者からの聞き取りが中心だが、学校を訪問して、担任から様子を聞くこともある。 いろいろな関係者から話を聞くことによって、子どもの理解が進むと考えて、相談支援を行っている。 ③ アビリティーズジャスコ（参加者13名） 一般就労を希望している方（65歳未満）の自立、また安心して就労生活を送ることができるよう、職業訓練や就職活動、就職後の定着サポートを行っている。 アビリティーズジャスコの魅力は、一人一人の要望に沿った丁寧なサポートにあると感じた。

A-2ブロック

A-2ブロック	1月例会	参加人数 42人	会場：千葉市立松ヶ丘小学校
---------	------	----------	---------------

<各学校からの教材・教具の紹介>

子どもたちへの日々の支援につなげるために、各学校で行った、行う予定の教材・教具の情報を交換しました。どの学校でも子ども達のために創意工夫がされていて、とてもよい機会となりました。



<「平成28年度 教材・教具の紹介」の配布>

上記で紹介してくださった教材・教具を一冊の冊子にまとめました。

※各学校一冊ずつ配布いたしました。今回の市教研不参加だった学校には、市教委 BOX で配布しましたので参考になさってください。

<次年度に向けてのアンケート>

次年度へ向けてのアンケート（今年度の反省も含めて）をとりました。

※今回の市教研不参加だった学校には、市教委 BOX で配布しましたので、何か意見等ありましたらお知らせください。

<県教研の報告>

今年度A-2ブロックが県教研で『互いに知り合い、一人ひとりを認め合う児童の育成～「ふれあい」から「みとめあい」の交流及び共同学習を通して～』を提案させていただきました。たくさんの先生方からのご協力のおかげで、よい提案ができました。また、他の地区のよい発表を聞くことができました。ありがとうございました。

A-2ブロック会員の皆様

一年間、様々なことにご協力いただき、ありがとうございました。先生方のおかげでスムーズな会の進行や、教材・教具集の作成、充実した授業研究を行うことができました。来年度もよろしくお願いいたします。

B ブロック

B ブロック		報告者	佐藤 亜希子
		学校名	生浜中学校
参加人数	27 人	会場	真砂中学校
1 月 例 会 研 修 1 月 17 日 火	内容	1. 平成 29 年度県教研にむけて ○年間計画案の検討 ・各学校からのアンケートを参考に作成した。 ・次年度、夏季休業前は県教研テーマを中心に、以降は市教研テーマを中心に取り組む。 ・6月（2校）と10月（1校）に授業を行う。 2. (アンケートより) 各学校の進路学習について ○さつきが丘中学校の事例紹介 進路学習（指導）では、金銭に関することを取り扱っている。始めは「どのようにお金を稼ぐか」から入り、「一人暮らしをするためには」というところまでを目標に取り組んでいる。 「働く人」のモデルがいなかったり、家庭の中でも仕事についての話題があがらない家庭も多かったりと、生徒自身が「働くこと」について考えられる状況にない場合があるため、芸能人（AKB48や EXILE など）に焦点を当て、給料のことや働き方、働くことについて興味をもてるようにしている。 ○小中台中学校の事例・・・「できることには手を抜かない」 「将来格好よく働ける人になるために」5箇条を設けて取り組んでいる。 ① 持ちのよいあいさつ ②素直な返事 ③時間を守る ④きれいな身だしなみ ⑤体力（マラソン） 3. 県教研テーマ 「進路指導」という大きなテーマから、具体的に県教研に向けて取り上げたい内容についてアンケートを取った。	
次回			

Cブロック

Cブロック	11月例会	参加人数 38人	会場：高洲第三小学校
1 諸連絡 ○県特連ブロック研修会変更点について ほか 2 情報交換（実践報告） ＜報告1＞ 「吃音を生きるということ ～子どもたちのレジリエンス～」 第45回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会島根大会の吃音分科会で発表した実践の報告。どもる子どもとなかなか向き合えず悩んでいたことばの教室の担当者が、仲間や子どもと関わる中で、子どもと向き合うために対話が必要だと気付いた。自らの体験を通して、対話の力を感じた担当者は、子どもと対等の立場で、語りに耳を傾け、自分を語りながら子どもと向き合った。ネガティブな考えを肯定的なものにしていくための対話がレジリエンスを育てることに役立った。こどもと向き合う姿勢や必要性、具体的な実践についての報告をした。 ＜報告2＞ 「難聴理解のための取り組み」 ● 教員を対象とした難聴体験等の様子とその成果。 ● 5年生児童を対象に行った、理解授業としての「きこえにくさ体験」。 ● 難聴理解のための啓発授業として、3年生から難聴体験を行っていること、きこえ担当の思いだけでなく学級担任と共に授業を作ることが大切であること、難聴児だけでなく授業を受ける児童全員のためになるものであること。 ● 消音マット導入のための授業について。 上記の内容について成果と課題も含め、映像を交えながら紹介した。 ＜報告3＞ 「ラジオ体操の動きとメロディを生かした『口と舌の体操』」 音楽に合わせて、体の体操を行い、その動きからイメージできる口と舌の体操を紹介した。口と舌の体操を行う前に体をほぐしたり脱力したりすることで、口や舌の動きがよくなっている。また、動きをイメージしやすい音楽に合わせることで、繰り返しの練習に子どもが進んで楽しく取り組んでいるという成果が現れている。 ＜報告4＞ 「おはなし（コミュニケーション）グループ学習について」 吃音児以外の全通級児を対象として行っているグループ学習の目的や必要性を、略案と映像（『ことば集め』『スリーヒントクイズ』）を交えながら紹介した。語彙が増えた、子どもたち同士の関わりが増えた、保護者の関心も高めることができた、などの成果につながっている。担当者と子どもや、子ども同士の「対話」を通して学びが深まっていくことを大切にしていることや、個別の学習と相互に関連付けながら今後も進めていくということを提案した。			

D ブロック

D ブロック 1 月例会

「教材づくり・今年度のまとめ・次年度に向けて」 講師 宮野木小学校校長 吉岡 龍子先生

1 教材作り：マグネットシートを使ったカタカナ教材 鶴沢小学校 高濱 美穂先生

材料 A5サイズのマグネットシート

作り方 型紙を使用し、マグネットで、長い棒2、中の棒2 短い棒2 カーブ1 左はらい（長）
左はらい（中）右はらい（長）点2 はね1 丸1の14のパーツを作る。

使い方 14のパーツを組み合わせて、すべてのカタカナを作ることができる。エからユをつくる、クに
点をたしてタにする、スからヌを作るなど変形させて作っていくこともできる。長さ、とめ・は
ね、はらいなどのパーツに着目したり、位置や角度に着目したりして作ることで、似ている字を
区別して覚える、バランスを整えることにつながっていく。

2 今年度のまとめ

アンケート用紙に記入をする。

3 次年度に向けて

- ・今年度、泉高校の見学でアクティブスクールを知りとても新鮮だった。次年度も進路関係について研修
したい。他のアクティブスクールや他の特色ある学校、椿森中学校の特別支援学級を見に行く、幕張総
合高校について話を聞く、ジョブコーチについて発達障害者支援センターの先生から話を聞く。
- ・いろいろな機関と連携をとりたい。たとえば、発達障害者支援センターなど。
- ・保護者支援についてペアレントトレーニングなどについて学びたい。
- ・子供たちが放課後支援でいろいろなところを使っているの、見学に行きたい。
- ・ソーシャルスキル教材、ゲームについて講師を呼んで話を聞きたい。
- ・今年度行ったように、実践している事例について話を聞きたい。

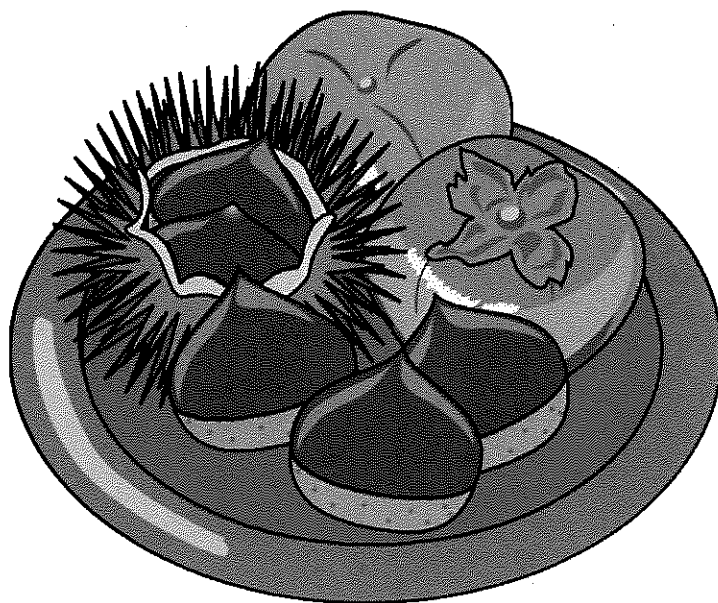
4 講師指導

子どもについて、いろいろな見方をもつことが大切である。そして、見立てをする。時にはその見立
てが間違っていることがある。だからこそ、研修をして、いろいろなことを学んでほしい。保護者対応
についても、保護者について丁寧にみていくことが大切である。最近、カサンドラ症候群について知っ
た。(カサンドラ症候群とはアスペルガー症候群がある人の家族や身近な人がコミュニケーションをうまく
築けないために起こる二次障害)保護者を理解して、丁寧に対応していくことが大切である。

特別支援教育部会

平成28年度

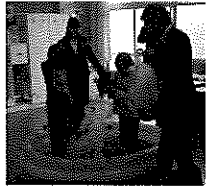
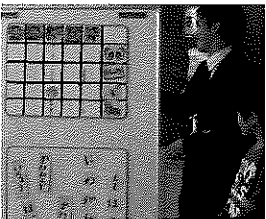
11月例会報告



A-1 ブロック

参加人数	46名	
今回11月例会	協議内容	内 容 : 授業研究 会 場 : 千葉市立 打瀬小学校 講 師 : 千葉市立 あやめ台小学校 校長 宮澤 仁 先生 提案者 : 千葉市立 打瀬小学校 島尾 秀美 先生 瀬戸 弘樹 先生 単元名 : 体育科 「いろいろな器械・器具を使った運動遊び」 授業について あいさつの後、集団走を行う。3周は一定のペースで走り、2周は自由に走る。次にソフト平均台の上をみんなで並んで歩く。ここで本時のめあてを表を使いながら、確認する。続いてマット運動に移る。教師の合図に合わせて前転を行う。ジャンプ、足上げの準備運動をした後、高跳びをする。最後にアリーナ全体に配置されたサーキットコースを使って運動した。サーキットでは各所に手立て、工夫がちりばめられていた。片付けは役割分担をして、全員で協力して行っていた。 協議会より ・（授業者より）楽しく体を動かす中で、運動量を確保しながら、しっかりと技術を伸ばせるようにした。いつもより緊張していたからか、あまり声が出ず、静かに活動していた。 ・子どもたちが見通しを持って運動していた。場の工夫がたくさんあって、勉強になった。片付けも役割分担がされていて良かった。 ・準備体操は全体的に、準備運動は個別の運動の前によく動かす箇所を重点的に行うようにしている。 ・仲良く生活するために、普段の生活の中での自己評価、他己評価を大切にしている。 講師指導 ・楽しい授業を作るために…運動の有能感について。 ・個々の実態に応じためあて作りについて。実態に合っためあてを自分で立てるのは難しい。教師が主となり、子どもと一緒に考えていく。 ・実態把握の大切さ。運動の発達段階に沿ってとらえていく。 ・授業づくりの観点。今日の授業を参考に。
次回月例会	会場	畑町ガーデン、アビリティーズジャスコ、でい・まさご式番館
	内容	施設見学

A-2 ブロック

1 1 月例会	参加人数 4 7 人	会場：千葉市立土気小学校
<授業研究> 講師：指導主事 峰 成治先生 単元名 「友達に伝えよう」(国語科) 授業者 原永 裕規先生 (Middle)・池内 剛先生 (High)・米元 初美先生 (Low) (1) 授業者の先生方より 米元 初美先生 (Low) から・・・児童が助詞を意識して話すなど、この学習を通して大きな成長が見られた。 原永 裕規先生 (Middle) から・・・欠席が多く、児童 2 人だけの展開だったため教師主体になってしまったが、楽しそうに活動する姿が見られた。 池内 剛先生 (High) から・・・パワーポイントや写真を使って児童の注目を集めることができた。また児童も今日の予定を把握し、3つの題材で発表することができてよかった。 ☆三人の先生方共通していたこと・・・「話す」「聞く」を重点とした指導法について 日常的に取り組める指導、支援法について (2) 協議内容 <グループになって話し合いました。> ○落ち葉のプールを用意するなど体験活動があって児童も楽しそうだった。 ○日頃の積み重ねがどの授業にも見られた。 ○Middle グループで使っていた「ことばの宝箱」を High グループで使っても良いのではないかな。 ○「良い姿勢で聞く」ということには机の有無も関係するのではないかな。 (3) 講師の先生より ・この授業(単元)でどう子どもを変えるのかを大切に考えてほしい。 ・必ず特別支援学級担任の先生も学習指導要領や、指導書、教科書を見て学習構成などを考えてほしい。 ・授業をつくるにあたっては下の10点を参考にして欲しい。 指導の10点 (重点) ①子どもと教師 子ども同士の関係 ②活動の確保 ③指導案 ④めあて(目標)が妥当か ⑤教材・教具の工夫 ⑥教師の支援・指導・補助の仕方 ⑦学習資料の活用 ⑧言語活動の充実 ⑨評価 ⑩日常化につなげる手立て  		
次回 1 月例会	場所：千葉市立松ヶ丘小学校	
	内容：教材・教具の紹介、来年度に向けて、県教研の報告	
	・上履き持参をお願いします。 ・車で来られる方は、順番につめてとめてください。 ☆実際に教具を見せていただけると今後に変役に立ちます。持ってきていただけるものはご持参ください。よろしくお願いします。	

B ブロック

1 1 月例会	参加人数 36人	会場：千葉市立松ヶ丘中学校
研修内容	Bブロックテーマ「個々の能力に応じた表現力を育てるための支援の在り方」 1. 研究授業 会場：松ヶ丘中学校 つばさ学級 理科「電気と磁石の性質」 授業者：藤村 渉 先生、内山 和子 先生、寺本 篤弘 先生 講師：千葉市立大木戸小学校 教頭 岡西 克己 先生 2. 協議会 ○授業者より ・昨年度に比べて、着席し続けられない生徒もいて落ち着かない中だが、ようやく本時の状態に落ち着いてきた。 ・「振り返り、課題、活動」の確認は、学校全体で取り組んでいること。→本校の研究主題にもあるユニバーサルデザインを意識している。 ○感想、質疑応答など ・実物を用意していたのが良かった ・ワークシートが2種類あり、個に応じた工夫をされていたが、その他にも工夫した点があれば教えて欲しい。 →先月の市教研で複数の選択肢から選ぶプリントを用意されていたので、自発的に思いつくのが難しい生徒の為に、そのアイデアを採用した。 ○各学校で取り組んでいる理科の授業内容や、取り扱った内容について（情報交換） ・各学年の内容に準じた構成を、専科の先生にお願いしている。体験型の内容から言葉（意味）の指導までを実態に応じて。 ・夏休みの実験、科学工作、観察などから、実は基礎的・基本的な内容が盛り込んでいける。生徒の意欲が高い。 ・小学校時代、小3あたりの実験は意欲的に取り組むことができる。やはり体験型。 ○講師より 「指導案について」 ・まとめとしては、「学んできたもの」→「ドリルでまとめる」流れの方が定着しやすい。 ・目標・実態・手立てがもう少し具体的に書けているとよい。 「授業について」 ・「エアコンも電気で動くかな」と発言した生徒がいた、そこを拾っていくと生活の中に反映できていくかも。 ・教育的なニーズ、将来の自立、社会参加 → 実態の把握から、いかに授業にピンポイントで反映させていくかが大事 「その他」 ・教科は「生きる力を育むための媒体」であり、特別支援の強みである「教科領域」をクロスオーバーさせて、展開していくのが生徒達の力になっていく ・教科指導で技能知識を習得できる生徒について、やはり教科の指導は大事にしてあげなければいけない。ただ、複合的なアプローチで取り組むことも大切なので、その視点を忘れずに。	
	○次回連絡 日時・・・1月17日（火） 会場・・・未定、後日連絡いたします。 内容・・・千葉県教育研究会提案に向けた、内容検討会 講師・・・千葉市立養護学校 校長 黒川 章子 先生	

Cブロック

1 1月例会	参加人数 35人	会場：高洲第三小学校
1 全体で今日の流れを確認・諸連絡 ○事例検討の進め方、グループ分けについて説明 経験年数の少ない担当者が大変多いので、気軽に相談し、学び合う時間とする。 ○ことばを育てる会からのお知らせ ○県特連研修会について 2 事例検討会 ことばグループでは、以下の事例について提案者が、1児童の実態 2問題点 3指導してきたこと 4わからないこと（聞きたいこと）の4点を中心に資料や動画で示し、説明をした後、質疑応答、実態の見直し及び参考になる指導方法や終了の目安、事例に関わるその他の情報などについて自由に話し合いをもった。 きこえグループでは、教室ごとに複数の事例をもとに、現在の状況や傾向、他の教室でも必要と思われる情報を提示し、より良い指導方法や指導内容について検討した。 <ことばA Bグループ共通事例> 2年女児 側音化と歯間化の重複。イ列、拗音、サ行、ザ行、ツ、ラ行。母音にも力が入る。舌がとても長く、前や横に出す癖がある。発音の誤りより、視覚的な部分が目立つ。 <ことばAグループ> 事例1 1年男児 カ行、ガ行の置換は改善された。マ行がバ行、ナ行がダ行になり、鼻から息が出ていない。 事例2 3年男児 サ行がシャ行、ザ行がジャ行、シャ行がヒャ行、ツがチュ、チャ行がキャ行のような音になっている。ラ行、拗音の発音が不明瞭である。あごが小さく、歯並びが悪い。 事例3 5年男児 イ列音、エ、ケ、ゲの音が歪んでいる。高音域の聴力が落ちている。語彙数が同年齢児より少ない。 <ことばBグループ> 事例1 5年女児 サ行音が不明瞭である。舌が長い。両唇音であるマ行を発音するとき、唇が閉じない。 事例2 4年男児 イ列音、キャ行、ギャ行、シャ行、ジャ行、チャ行が歪んでいる。側音化構音であり、右側に隙間ができる。サ行、ザ行、ナ行が歯間化傾向で、不明瞭である。 事例3 1年男児 サ行、ツ、イの音が歯間化構音である。サ行は一貫性があるが、ツ、イは一貫性がない。姿勢が悪く、いつも口が開いており、舌も出ている。 <きこえ> 共通のテーマ「一側性難聴について」 提案者1 吃音や発音の誤り、国語力の低さを併せ持つ児童が多い。自分は聞こえている、とっていて、日常の困り感が少なく、きこえの教室へきている意義を感じにくい。語彙を増やすため、日記指導をしている。 提案者2 聴力よりも、視線や姿勢、行動面などが気になり、ソーシャルスキルが必要と思われる児童がいる。補聴器の電池が切れていても気付かないなど、聴覚活用を重視していない児童がいる。 提案者3 一側性難聴は、発見が遅い、または見た目で見えないことから、公にしてほしくないと希望する児童がいる。感情のコントロールが苦手で行動面が気になる児童には、気持ちの表現方法を学習内容に取り入れている。		
次回例会 1月17日	会場：高洲第三小学校	内容：教材の紹介その他の情報交換

D ブロック

11月例会	参加人数：19名	会場：養護教育センター
1 「指導事例の紹介」「各担当者へ聞いてみたいこと」のアンケートより (1) LD教室：読み書き障害への具体的な指導の方法・教材 <鶴沢小 高濱> ・書字を整えるために…実態から、眼球運動のトレーニングや書くことの負担を減らし、形をとらえる学習を行った。「図形」から漢字の構成要素である「カタカナ」をピンボードやマグネットシート等を使い習得することで漢字を構成する力に結び付いた。 ・漢字の覚え方「唱えて覚える(聴覚記憶)」「書いて覚える(運動記憶)」「文章で覚える(意味記憶)」 ・教材・HPの紹介 (2) ことばの教室：発語・表記の指導方法 <幕張小 櫻井先生> ○正しく発音できない子へ：発音の練習と音の聞き分けを行う。 ・定着するためには繰り返す必要があるが、苦手なことを扱うので飽きずに楽しく反復練習する工夫が必要。しりとり、すごろく、トランプ等で苦手な語の発音練習を繰り返し扱う。 ・間違えている音を本人に意識させることは必要だが、初めは否定せず正しい音を聞かせることを大事にするなど、自信をなくさないようにたくさん褒めて、楽しみながら指導を行う。 ○吃音の子へ：吃音は100人に1人。自分だけだと感じがち→グループ活動で仲間を知る。 ・環境の変化にも影響されやすい。大人と一緒に本をゆっくり読む、歌を歌う、九九を唱えることなどつまりにくいこともある。つまらないで言えた経験をたくさん重ねる。 ・治りにくいので、つまっていることに目を向けるのではなく、話す楽しさに目を向けさせる。 (3) 支援学級：授業に参加できない子への対処 <稲毛小 大野先生> ○3年A君…入学段階から指導員配置を行い、支援。毎月、段階を追って目標を決めていった。例えば、教室を出るときは①断ってから出る②時間を決めて戻ることを約束し、自分で戻れたらチケットをもらえるなどの方法をとった。徐々に教室での学習に向かう姿勢へと目標をシフトし、現在3年生。学習面での難しさはあるが、授業には出られるようになった。 ○2年B君…家庭環境が不安定で、睡眠も不規則。苦手な部分の検査を行ったり、担任・養護教諭支援学級での交流など校内で連携してサポートしたりした。その結果、保護者もがんばろうという気持ちに向いてきた。週2回の交流で丁寧にサポートすることで意欲を引き出している。		
2 「LD体験について」小倉台小学校 今関 裕子先生より 「LD・ADHD等の疑似体験プログラム」10月例会続き… 困難さやそれに伴う心理的焦り・苛立ち等を疑似体験し、グループワークを行い、気持ちの共有や支援の手立てを考える。 (1)「読む」読んでも意味が理解できない①黙読(口頭で50音唱えつつ、黙読) ・うまく理解できない原因は…2つ以上のことを同時に行う難しさ。読みの過程の音声化が阻害される。 新規の文章は、想像以上に負荷がかかる。 ・対処…あらかじめ内容について伝える。絵や図があるとイメージ膨らませる。文の関係性を明確に。 (2)「書く」文字を正しく写せない図形や漢字の視写 ・複雑な形もまとまりのよい部分に分けると捉えやすくなる。パーツ、色分けして、ゴロ合わせ。意味づけをして部首を学習させることもいい。 (3)「聞く」刺激が多い場面での指示理解、一斉指示に気付かなかったり、聞き漏らしたりする。 授業風景・子ども(太郎)の視点で。関係ない視覚刺激・聴覚刺激に気を取られ、やれない。 「また怒られちゃった。宿題なんだっけ？」→注意がそれやすいという実態を把握。 ・言葉だけでなく、視覚的な手がかり。叱る前に、注目を集める工夫を。		
3 講師より 宮野木小学校 校長 吉岡龍子先生より ・教室で目立ちにくい、注意の弱い子がいる。情報を提供して校内での理解を図ることが必要。 ・校内での事例に対し、「ここにつまずきがある」「こんな手立てが取れる」など整理していく役目がますます求められている。学校での発信や相談をお願いしたい。		

<次回11月例会>

会場：養護教育センター

内容：(1) 今年度のまとめと次年度に向けて (2) 教材作り(マグネットシートを使ったカタカナ)

特別支援教育部会

平成28年度

10月例会報告



A-1 ブロック

参加人数	32名	
10月例会	協議内容	【第二養護学校の教育課程、授業内容などについて】 ①学校紹介 ○学区の概要 ○学校経営方針 「日常生活の指導」を重視、自分でできることをふやす ○教育課程について 国語・算数のかわりに「ことば・かず」という時間を設けている ○週日程 帯で身体づくり運動をとっている 下校時のスクールバス利用は1割程度、デイサービスを利用している ○1日の流れ 全校統一の手洗いの歌がある、歯みがきに力を入れている ○個別の指導計画、個別の教育支援計画 ○行事について 轟町小学校と定期的な交流を行っている ○校外学習 動物公園・きぼーる・ポートタワー・水族館・東京方面 げんきキャンプなどの宿泊学習 ○特色ある教育活動 ①身体づくり ②こぼと広場（全校集会） ③轟町小との交流会 ④他校種交流会 ○居住地校交流 26年度 6人 27年度 9人 28年度 9人 ②学校見学 ③教材教具の紹介、授業風景のビデオ視聴（自由参観） ④質疑応答
次回月例会	会場	千葉市立打瀬小学校
	内容	授業研究および協議会

A-2ブロック

A-2ブロック	10月例会	参加人数 33人	会場：千葉市立土気小学校
＜指導案検討＞ 講師：指導主事 峰 成治先生 単元名 「友達に伝えよう」(国語科) 授業者 原永 裕規先生 (Middle)・池内 剛先生 (High)・米元 初美先生 (Low) (1) 授業者の先生方より ○校内研と兼ねているため、指導案の書き方に悩んでいる。 ○聞くことの評価をどうすればいいか悩んでいる。 ・昨年度から校内研で国語に取り組んでいる。本年度は読むことを重点的に行いたい。 ・助詞を使って話すことを目標にしている。(Low グループ) ・文章を整理する力をつけたい。(High グループ) ○友達の発表を聞く時の姿勢や発表の仕方についての支援に悩んでいる。(High グループ) ○話し方を型にはめてしまっているが柔軟性に欠けてしまわないか。(Middle グループ) (2) 協議内容＜授業者の先生の提案をもとにグループになって話し合いました。＞ ○話し方を型にはめてしまっているが柔軟性に欠けてしまわないか。 →児童が好きなものや好きなことの語彙表を用意する。 ○友達の発表を聞く時の姿勢や発表の仕方についての支援について悩んでいる。 →聞く話は好きなものなど児童が興味をもてるものの方がいいのではないか。 →予定表などで児童に見通しを持たせてはどうか。 →「ニュースキャスター」になりきって発表させるなど工夫してみてもどうか。 ●単元の目標には「書くこと」の評価が入っていないが、Middle グループの評価に書くことが入っている。 ●目標が多すぎではないか。 (3) 講師の先生より ・通常学級の先生もわかるような指導案をつくっていくべき →互いに助け合えるように、校内研究などの機会を利用し、授業を参観してもらうべき ・子ども達に学習の見通しや達成感を持たせるべき →安心して活動できる環境を ・最終的にどのような姿になりたいのか、ゴールをはっきりさせる →そのように考えていくと手だてが考えやすい ・Low グループはくり返しが多いが、ちょっとでも変化があるとおもしろいかもしれない ・Middle・High グループはTVやICTをよりよく活用することで、子ども達の興味、関心が変わってくると思う			
次回 11月例会	場所：千葉市立土気小学校		
	内容：授業研究		
	・上履き持参をお願いします。 ・駐車場の台数が限られていますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。 ・車で来られる方は、正門からお入りください。		

B ブロック

B ブロック	10月例会	参加人数：30人	会場：犢橋中学校
ブロックテーマ「個々の能力に応じた表現力を育てるための支援のあり方」 1. 授業の見学 3年D組 生活単元学習「わたしの未来を考えよう」 授業者 山本 雅子 先生 講師 千葉市立高等特別支援学校 教頭 三橋 一裕 先生 2. 協議会 <授業者より> ・3年生にとって、自らの将来について考えるきっかけを作りたいと考え、教師と生徒の1対1の形の授業を設定した。10月初旬に参加した特別支援学校高等部の体験入学と関連させ、「自らの将来を見据えた上で高等部に進学して欲しい」という願いをもって、この単元を設定した。 ・常日頃から、作業学習、職場実習、バザーでの販売など体験的な活動を数多く取り入れながら、生徒の力を伸ばしたいと考えている。 ・生徒本人から、自らの気持ちや考えなどを聞き出すのが難しいため、問いかけ方、資料などを工夫することによって、生徒との意思疎通を図りたい。 <協議会、アンケートより> ・生徒への愛情がすごく伝わってきました。 ・ほぼマンツーマンの授業が行われており、非常にうらやましく感じた。 ・映像の資料に生徒が興味を示しており、非常に効果的であったと思う。 ・早い段階から教師への言葉遣いや授業中と休み時間のメリハリなどを指導する必要がある。社会自立において、周囲から反感を買わないようにするのは重要である。 <講師の先生より> ・常日頃から、「この子たちは、将来どんな生活をするのだろうか？」と生徒の将来像を考える必要がある。将来像が見えてくると、どんな指導や支援が必要なのか見えてくる。 ・この子に合った生き方を見つけるのが、その子にとって最大の幸せである。生徒が自らに合った生き方を見つけられるようにコーディネートするのが教師の仕事である。 ・「働くことがつらいこと」であることを生徒に理解させることは大事だが、やりがいや働くことは喜びを得られるものであることも伝えるべきである。 ・写真資料に興味を示していたので、イラストは使わず、全て写真でも良かった。 ・数値化するなどして、声の大きさに対する指導を継続的に行うと良い。			
○次回の連絡 日時：平成28年11月15日（火） 会場：千葉市立松ヶ丘中学校 内容：授業研究 授業者：藤村 渉 先生			

Cブロック

Cブロック	10月例会	参加人数 37人	会場：幕張小学校
1 授業研究 ことばの教室 側音化構音のA児の指導 授業者 大岩 恵子先生（幕張小学校） 2 協議会 ＜授業者より＞ 今回の授業は、本児が、自分の音の正誤判断や、口の体操が正しくできているかどうか分かっていないので、自身のビデオや写真を見せて、確認させることから始めた。ビデオでの音の正誤判断は難しく、時間もかかってしまった。口の体操は、今まで難しかったものを中心に取 り入れた。指導案に載せた8種類の体操は、これを行えば舌の緊張がとれると思って選んだ。 授業の最後は駆け足になってしまった。舌打ちは、以前より高い音が出せるようになった。 バタフライポジションはまだできず、意識すると舌が膨らむので、もっと努力させる必要があ ると思った。 ＜参観者より＞ ○以前より、落ち着いた態度で取り組むことができていた。教材の工夫がたくさんされていて良 かった。側音化の児童なので、舌の平らがポイントになる。先生が見せたお手本と児童の舌の 様子が異なっていたので、下唇が隠れる程度に舌を出させ、お手本に近づけさせるような指導 をしたほうがよい。「エ」でしっかりと口や舌を広げさせて、少しずつ「エーイー」のように「イ」 に移行させるとよい。その後、シの音の指導へ進むとよいと思う。 ○舌の体操では、「イ」の音が苦勞していた。唇は開いているが歯は閉じていたので、児童の舌の 様子が見えなかった。舌が見えるようにして、指導したほうがよい。奥歯に飴を入れて練習す るという方法もある。バケットは、緊張していて舌の脱力にはつながっていなかった。フルフ ル〇〇は、もっと舌先を上げてやるとよい。舌打ちだけでなく、舌のサイドを鳴らすサッキン グも行うとよい。授業の後半は、集中して練習できていた。 ○児童は、先生が用意したメニューに沿って、よく頑張っていたと思った。意欲が低いというこ とであったが、やり方次第で、ポイントに沿って練習に取り組める子だと思った。本児にとっ て、今日の一時間の中では課題が多すぎると感じた。全て舌の運動だったので、「イ」の音作り のためには口角を引く練習も行うとよい。重点を決め、自己評価のポイントを押さえて、課題 を絞ってあげると、もっと練習ができそうだった。少しやる気が見えた時には、回数など 本人に決めさせるのもよいと思う。 ○教材の工夫が多く、楽しそうに授業をしていた。顎をある程度下げて、奥まで舌を平らにする ことや、「イ」の音をしっかり出すことも大事だと思う。単音が安定しない状態で、語尾や語中 に「シ」がある動物クイズは、本児にとって難しかったと思う。 ○口角がうまく引けない本児には、口の体操の前に、顔の体操や、体全体をほぐす運動（ストレ ッチ）も有効ではないかと思う。全身→顔→口→舌の順に行うとよいと思われる。コーディネ ーショントレーニング、顔ヨガ等、いろいろな文献があり、本校でも研修をしているので参考 にしてほしい。 ＜夏季研提案について＞ 今回参加者から出された意見を参考に、本児の実態に合わせた口と舌の体操を、意欲を高め る工夫とともに実践し、効果が得られたものを事例としてまとめていく。 3 その他 連絡等 ○千葉市吃音交流会について ○ふれあいコンサートについて ○県特連研修会について			
次回例会 11月15日	会場：高洲第三小学校	内容：事例検討会	

D ブロック

D ブロック 10月例会

「千葉県立泉高校（アクティブスクール）学校見学

1 学校概要について

① 基礎基本から丁寧に

○学校設定科目（ベーシック）について

主に小中学校段階までの学習の学び直しを目的としている。1年生を対象として週3時間、3単位の授業として行われ、英語、国語、数学の3教科を各1時間ずつ行っている。主担当は教科指導副担当は、「学ぶ姿勢」の指導を担当する。また「基本的な生活習慣」の学び直しの意味もあり、1時間目に設定している。

② 実践的なキャリア教育

○インターンシップ

近隣の企業に3日間、社員と同じ流れで就業体験できるようにしている。キャリアコーディネーターがいて、企業と学校をつないでいる。事前にあいさつや年上の人と会話することなどを指導した上で参加させている。学校とは違うという認識を持たせる。失敗することもあるが、夢を現実に行き届かせるため、1年秋、2年春と秋、3年春の4回、自分に合う仕事は何かを確認できる機会となる。

○充実したキャリア教育

「産業社会と人間」では、世の中に出てから必要なこと、コミュニケーション能力などを教える。さまざまな外部団体と連携し、多彩なゲストを招いた特別授業も行われる。

③ 一人一人を大切に

○充実した相談体制

スクールカウンセラーに加え、ソーシャルワーカー等専門のスタッフが親身になって相談に応じている。

2 質疑応答

Q特別な支援を必要としている子に配慮していることはあるか？

Aプリントを行う時に書くことが遅い子への対応として、最初から解答を渡し、時間内に書き写すことができるようにしている。

Q小学校の段階でやっておくといいことは？

A数学科からは、分数計算ができるとよい。国語科からは、書くことを嫌がる子が多い。書くことへの抵抗を減らしてほしい。字は汚くてもいい。書かないと評価してあげたくても出来ない。

Q発達障害の生徒はどのくらいいるか？

A入学初めに発達障害の診断があると言ってくるのは、200人中2人ぐらい。合理的配慮についてのアンケートをとった時に、診断はないが療育センターに通ってました等を伝えてくるのが、10人ぐらいいる。合理的配慮をとっているのは校内で4名。

Q保護者への対応は？

A年に2回の面談。登校していない子への電話確認。表情を見て気になることがあれば保護者へ連絡するなど、他の学校に比べ、細かく対応している。

次回 11月例会 ・内容「事例紹介、LD体験続き」 ・場所 養護教育センター

特別支援教育部会

平成28年度

9月例会報告



A-1 ブロック

参加人数	35名	
今回5月例会	協議内容	【教材教具の紹介】 ・資料をもとに、実物を持参した学校を中心に教材や教具の紹介を行った。 ○真砂東小 音楽 「ゆきのこぼうず」 ○県立千葉特別支援学校 「動きの方向を引き出す教材」など。 ※特別支援学校のHPを見ると、いろいろな教材が載っている。 ○打瀬小 「マッチングの教材」「プットインの教材」 ○あやめ台小 「細部を見てマッチングして組み立てる教材」 「漢字ビンゴ」 ○長作小 「位取りの教材」 「国語辞典を使って」 ○山王小 「道徳の実践（くり）」 ○花園小 「文を作ろう」 ○稲浜小 「白衣のたたみ方」 ○草野小 「交流めあてカード」 講師の先生から（あやめ台小・宮澤校長先生） ○教材教具の開発のポイント ・発達課題がどんなことか、どんなことをねらうか、しっかりと意識する。 ・作り直し、補充を常にしなければならない。 ・安全性に気を付ける。（せっかくの工夫が台無しになってしまう） ・大きさはB4くらいが精一杯と言われている。 ・写真がいいか、絵がいいのかは、児童の実態によって違う。 ・市販のプリントはよく考えられていて、活用できるが、児童の実態に合わせて、吟味し、もうひと手間かけることが必要。 ・ホームセンター、100円ショップはアイデアの宝庫である。
次回月例会	会場	千葉市立第二養護学校
	内容	特別支援学校の教育課程、授業内容などについて

A-2ブロック

A-2ブロック	9月例会	参加人数 51人	会場：みらい工房 みらい工房だいち たんぽぽルームそが のびるキッズ
---------	------	----------	---

★各施設で施設見学や施設の概要などの説明をしていただきました。

・みらい工房

→活動内容 ①日常生活訓練 ②創作的活動 ③更生相談 ④健康指導 ⑤介護サービス
⑥送迎サービス

→実施事業 生活介護事業 20名、放課後等デイサービス事業 20名、指定特定相談支援事業、
指定障害児相談支援事業、日中一時支援事業

・みらい工房だいち

→実施事業 ①生活介護～定員 40名（平成 28 年 6 月 1 日現在の契約者 55 名）
②日中一時支援～定員 3 名（平日）18 名（土曜日）
③放課後デイサービス～定員 10 名（平成 28 年 6 月 1 日現在の契約者 33 名）

・たんぽぽルーム

→市立養護学校を含め 3 校の特別支援学校、2 校の小学校特別支援学級の子ども達を預かっている。
→主にゆっくりとくつろげるような環境づくり及び支援を行っている。送迎付き。
→ガイドラインが出ていることもあり、今後各学校との連携を深めていきたいとの話もあった。

・のびるキッズ

→参観したのは英語の学習。ネイティブの講師が来て英語を教えている。
→曜日ごとに学習教科が変わる。英語の他、音楽やリトミックなども教えている。
→定員は 10 名、支援者は 5～6 名。
→学習に特化している施設なので、どちらかというと通常学級の児童が多い。
→のびるキッズ蘇我校では外出はせずに、室内での学習がメインとなっている施設である。

子ども達の様子を参観
させていただきました！



☆お知らせ☆

○はーとやのパン

→平成 27 年 4 月より、パンとサンドイッチを扱う就労継続支援 B 型の事業所がスタートしました。

○みらい工房では、平成 31 年度に茂原の方へグループホーム設立の予定とのことです。

次回 10月例会	場所：千葉市立土気小学校
	内容：指導案検討（グループ別国語科指導案）
	・上履き持参をお願いします。 ・駐車場の台数が限られていますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

B ブロック

	参加人数	21人	
今回 9月例会	協議内容	クラーク記念国際高等学校 千葉校 見学 <学校の特徴> ・サポート校ではなく、全日型通信制なので、高校卒業資格がとれるだけでなく、柔軟なカリキュラムコースを選択することができる。 ・自分の理解度に合った授業を受けることができる。分数や簡単な英会話をしている教室もあれば、普通高校と同じ内容を授業している教室もある。 ・好きなゼミを選択し、職業体験や社会見学、実験、食文化について学ぶことができる。部活動も豊富。設置のグラウンドや近隣の体育館を借りて練習。 ・体育祭、球技大会などは、千葉県内にある他キャンパスと合同で行い競い合う。 ・資格を1年に5個とることを目標にしている。 ・オーストラリアキャンパスに、1か月程留学することもできる。 ○在学生在普通の学校生活や行事の話を交えながら、校内の案内をしてくれた。 ○不登校の小学生や中学生が在籍校に行く代わりに通う東京大志学園もある。 <感想・ご意見> ・外部での研修は、時間厳守。 ・どのような学校かわからなかったが、イメージが持てた。 ・進路先の一つとして、選択肢が増えた。 ・生徒の能力にもよるが、進路先の一つとして視野に入れていいと感じている。 ・“不登校対応”“サポート校”のイメージがあったが、生徒たちには活気があり、生徒同士の雰囲気も良く驚いた。リスタートに向いている。 ・市教研で発達障害やボーダー域の子供に対応した特別支援学校以外の学校見学を増やしてほしい。今や特別支援＝知的障害ではない。知的と情緒部会も合同でいいのでは。	
次回 例会	会場	10月18日 犢橋中学校	
	内容	授業研究 授業者：山本雅子先生 助言者：養護教育センター 指導主事	

C ブロック

Cブロック	9月例会	参加人数 36人	会場：院内小学校
1 授業研究（10月例会）の指導案検討 題材名「口蓋化構音のA児」 授業者 大岩 恵子 先生（幕張小学校） <協議内容> ○児童の実態について ○県特連夏季研での提案を見据えた、題材と展開の妥当性、焦点の当て方について <授業者より> ○舌の癖が強く、発音が一時的に改善したように見えてもまた戻ってしまう児童に対して、どのような指導をしていけばよいのか、効果的な方法を研修したい。 ○発音が戻ってしまう原因として、「奥舌が盛り上がる癖がまだ見られる」「自分の発音の正誤弁別がよくできない」「正しく発音したいという意欲が低い」「まだ正しい発音に慣れていない」「特に舌尖の力が弱い」と分析し、指導方針を立てた。いかに発音練習に興味をもたせ、意欲をもたせて、定着まで進めるか考えて実践し、結果を出していきたい。 ○聴覚のみでの正誤弁別は難しいので、ストローを使って発音し、風の音が入るか入らないかによって弁別させるようにした。 ○意欲を高めるため、音読劇風に楽しく発音できるキとチがたくさん入った手作りの本を用意した。買い物に行く話だが、一通りだけでなく、いろいろなお店バージョンを作っている。 <参加者より> ○意欲が無いのは、集中力がなく気が散りやすいためだとしたら、この子にはどんな工夫をしたら、単調な練習をたくさんしてくれるのか、考えてみるのはいかがでしょうか。 ○口蓋化構音なのか、側音化構音なのか、どちらに対する指導を行うのか決める必要がある。また、療育センターへ通っていたということだが、知的な発達に問題は無いのか、はっきりさせるとよい。 ○舌の体操ではなく、構音指導に焦点を当て、楽しく練習できる指導の工夫をしてはどうか。 ○指導案上では、まとまった文章を全体として評価しているが、児童に評価させるのであれば、一行ずつなど、細かく区切って弁別評価させた方がよいと思う。 ○口蓋化している音、側音化している音、それぞれの現在の実態があいまいなので、五十音全部について再評価する必要がある。そのうえで何の音に注目するのか考え、本人や保護者に分かるように現状を伝え、見通しをもたせるとよいと思う。 ○教員が確実に音の評価をするのはもちろん、本人にも弁別力がつかないと般化は難しいので、自己評価する力を付けていきたい。 2 その他 連絡等 ○9月7日の研究協議会の内容報告 ○平成29年度 県特連研修会について ○平成29年度 県特連新役員について			
次回例会10月18日	会場：幕張小学校	内容：授業研究	

D ブロック

D ブロック 9月例会

1 「LD・ADHD等体験の心理的疑似体験プログラム」小倉小学校 今関 裕恵先生より

① 目的

- ・LD等のある子どもが示す困難さについて、疑似体験を通して理解する。
- ・困難さゆえに子どもたちが体験する心理状態（焦り、いらだち、不安）などを体験する。
- ・日常生活で子どもたちの示す行動の背景を理解する。
- ・それぞれの立場で、どのように接すればよいかを具体的に考える。

② 体験 「計算」

計算問題を体験し、計算が困難なのは、どうしてか、どうしたらよいか考える。

- ・桁がそろわない。
- ・声かけであせる。「終わった?」「急いで!」
- ・繰り上がりをメモをとらないと計算しづらい。
- ・不器用さ。自分が書いた字を読み間違える。1と7の区別がつかなくなる。

<支援の方法>

- ・マス目やたて線を入れる。
- ・プレッシャーをかけるような声かけをしない。
- ・筆算の式を書いておく。ノートに書くより、プリントを用意する。

③ 体験「迷路」

不器用な子の苦手さを体験する。どう対応したらよいか?

- ・えんぴつをうまくにぎれているか確認する。

<支援の方法>

- ・書く量を調節する。
- ・えんぴつはうすくないもの、書きやすいものを用意する。
- ・心理的プレッシャーをかけない。
- ・作品は、見て確認してから掲示する。

④ 体験「話す」

曖昧なものごとの説明を体験。知っているがうまく説明できないことを体験する。

- ・話がうまく伝わらないと悲しくなる。
- ・思いこみにより、言葉の意味を勘違いしていることがある。

<支援の方法>

- ・受容的な態度（相手に体を向ける、あいづちをうつ。）
- ・身振りは表情からも理解する。
- ・こどもの言葉をさえぎらない。

⑤ 体験「聞く」

たくさんの指示を聞いて作業をすることを体験。

- ・作業の途中で指示を聞いても覚えられない。
- ・たくさんの指示は覚えられない。

<支援の方法>

- ・指示は一度に言わない。見てわかるように、黒板に指示を書いておく。
- ・プレッシャーをかける言葉かけをしない。

2 連絡 10月18日（火） 学校見学 千葉県立泉高等学校（アクティブスクール）

特別支援教育部会

平成28年度

8月例会報告



全ブロック	8月例会	参加人数：168名	会場：千葉市ハーモニープラザ
-------	------	-----------	----------------

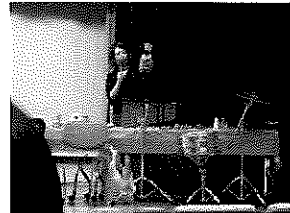
平成28年8月17日(水)

《講演会》

「コミュニケーションとしての音楽～音楽療法士の実践から～」

○講師 益山 ゆき 先生

☆東京音楽大学音楽学学部器楽科ピアノ専攻卒業。千葉県内の養護学校（現特別支援学校）教諭を経て、多くの障害者施設、高齢者施設の音楽療法を行う。ピアノ語とも呼ばれる独特の即興演奏が持ち味。日本音楽療法学会認定音楽療法士。



0～18歳子どもたちが行う音楽療法の映像の紹介や、実技を取り入れた楽しいお話を頂きました。

・音楽の授業では何をを目指すのか？

音楽の授業では「～をできる」「～を楽しむ」という表現がよくされるが、何をどうやって楽しむことが音楽なのかを初めに提起された。音楽は正しい音とリズムで「行わなければいけない」という誤解がある。音楽＝ナラティブ(その人の持つ世界観)、音楽はその人自身のものという考えをもとに、うまく伝えられない自分の感情を音で表現することができれば、子どもたちの世界は広がる。児童・生徒のために「何を」「何のために」「どうして」行っているのかを常に考えて授業での支援、指導をおこなっていく必要がある。

・楽器の紹介

- 音階がバラバラになる楽器 } サウンドブロック、ラッパ、トーンチャイム、ベル、木琴、
ミュージックパッド、ドレミパイプ
- たたく楽器…チャフチャス、カタカタ、鈴、マラカス(プラスチックや小さめの物がおすすめ)
- 揺れる楽器…ツリーチャイム
- 吹くもの…ハーキンカ、ラッパ、笛
- 踏むもの…ミュージックパット
- 擦るもの…カバサ、ギロ、ウォッシュボード

できる、できない、上手い、下手で楽器を選ぶのではなく、楽器を使用するのが難しい児童にはタンバリンなどの音のみの楽器を提示する等の支援をしていくことが大切。

《演習》

・手拍子をしよう

8、4、2、1拍子でピアノの音に合わせて手拍子していく。

・タンバリンでの会話

2人組になりタンバリンのみで会話をする。



- ・ トーンチャイム
 - ・ ツリーチャイム、太鼓、シンバル
- 3人組になり、ピアノ伴奏に合わせて演奏する。



- ・ 紹介して頂いた楽器



次回	会場	内容
9月例会	A-1 あやめ台小学校	A-1 教材教具の紹介
	A-2 放課後等デイサービス ノビルキッズ、みらい工房等	A-2 施設見学
	B クラーク記念国際高等学校	B 施設見学、学校説明
	C 院内小学校	C 10月授業研の指導案検討
	D 養護教育センター	D 実習 LD 体験

特別支援教育部会

平成28年度

6月例会報告



A-1 ブロック

参加人数	62名
今回5月例会	内 容 : 授業研究 会 場 : 千葉市立 長作小学校 講 師 : 千葉市立 あやめ台小学校 校長 宮澤 仁 先生 提案者 : 千葉市立 長作小学校 深堀 靖子 先生 勇 恭子 先生 单元名 : 算数科 「魚の長さを調べよう」 授業について あいさつの後、ワークシートに今日のめあてを記入する。導入として映像を使い、意欲を持たせ、魚釣りの活動に移る。魚釣りは教室を移動して行った。まずはじめは自分が釣った魚の長さを測定する。その後、グループに分かれて、班員の長さを足す。どちらが長かったかを全体で共有する。最後にワークシートに振り返りを記入する。 協議会より ・教材や手立てが工夫されていて、子どもたちが楽しそうに学習していた。BGM や映像も効果的であった。個々の実態に合わせて、課題が細かく設定されていて、実態に合った活動をしていた。 ・最後の比較が数字だけの比較だったので、具体物を使って直接比較ができると良かった。関わり合いを通して、グループの中で「楽しい!」と思える時間があると良かった。 講師指導 ・いろいろな実態の子がいる中で、どの子も自分の課題に向かっており、単元設定として良かった。 ・通常学級の教科書をよく見ること。何をどういう順番で教えるかがきちんと書かれている。その点で、チェックリストが細かく作られていてとても良かった。 ・2人担任という体制を生かし、既習事項は2Gに分けても良かった。 ・単位は知っていても、具体物の量感が育っていない子が多い。身の回りの具体物の長さ調べなどをたくさん体験させ、量感を育てていくことが重要である。
次回月例会	会場 千葉市立あやめ台小学校 内容 教材教具の紹介

A-2ブロック

A-2ブロック	6月例会	参加人数 52人	会場：千葉市立千城台北小学校
1 「千城台北小学校における交流および共同学習の進め方」 千城台北小学校での交流および共同学習の進め方について話していただきました。 <特別支援学級担任の先生から> ○通常学級の児童の意識・態度を育てる →同情ではなく、自分たちと同じ仲間であると思える段階まで ○職員同士の研修の場を →通常学級と特別支援学級の学級経営の良さを分かち合う ☆共同学習の年間指導計画を作成 ☆時間割もお互いに調整したもので取り組んでいる ☆個別の交流指導計画も作成 ○共同学習⇒できるだけ同じ場で、共に学ぶ →互いにメリットのある共同学習を ☆合理的配慮を（ex 一日、活動予定メモ・役割を与える・事前学習など） ☆授業のユニバーサルデザイン（ex TTによる説明の劇化・視覚的な説明の工夫など） ○担任間の連携 →二人で見ていくという視点（学年全体で児童（通常・特別支援）を指導・支援） <通常学級担任の先生から> ・以前は「ただその場にいるだけ。形だけの交流や学習」だった。 →通常学級児童からも“わかば学級の人のことがきらい” ⇒担任の意識に問題が（交流にメリットを感じず、特別支援学級の児童のことも知らない） ☆特別支援学級の児童とよい関係になるために大事なことは？ 担任の意図的・積極的な働きかけが大事⇒担任の意識が変われば児童の意識も変わる →その結果特別支援学級児童を仲間として接するようになった			
2 グループ協議 4～6人グループで協議してもらいました。 「学級の様子・実態」 「交流及び共同学習への取り組みの様子」 「日頃、悩んでいること」			
4 お知らせ 「交流及び共同学習の実態アンケート」を各学校に配布します。アンケートに答えていただき、夏休み前までに新宿小学校の茂木まで返答ください。 また「8月例会のお知らせ」「特別支援教育部会便りについて」も配布します。ご確認ください。			
次回 9月例会	場所：千葉市立土気小学校		
	内容：指導案検討（グループ別国語科指導案）		
	・上履き持参をお願いします。 ・駐車場の台数が限られていますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。		

B ブロック

B ブロック	6 月例会	参加人数：38 名	会場:真砂中学校
研 修 内 容	テーマ「個々の能力に応じた表現力を育てるための支援のあり方」 1 グループ協議 近隣校同士で6つグループに分かれて、以下の事柄について協議や情報交換をおこなった。 ・ 生活単元の具体的な授業例 作業学習の内容 合唱コンクールの参加方法 ・ 自立活動での具体的な例 療育手帳が取得できない生徒の進路指導 知的障害生徒と情緒障害生徒が同じクラスで学習する時の配慮や工夫について ・ 様々な状況下で進路指導（手帳あり・なし、高校希望・特支学校希望）を行っている。授業で応援の職員に来てもらえる授業数は十数～二十。 ・ 通常学級との交流の場をどのように設定しているかの紹介 ・ 療育手帳を取得できない・取得を希望しない生徒の進路先などの情報 2 講話 「卒業生（一期生）の進路状況や就労後のケア、在学時の支援について」 講師 千葉市立高等特別支援学校 高桑 鉄 先生 ・ 卒業生の進路状況などについて講話していただいた。中学校卒業後の進路決定では、高等部3年間を見通して、自己肯定感を高めながら成長できる場はどこの学校なのかを生徒と保護者が考え、受検して欲しいという話をいただいた。2月に行われる公開研究会で職業自立を想定した作業学習についての紹介もあった。		
9 月 例 会	9月13日（火） クラーク記念国際高等学校 千葉キャンパス の見学、学校説明 千葉市中央区松波1-1-1 Tel 043-290-6133		

Cブロック

Cブロック	6月例会	参加人数 38人	会場：院内小学校
1 授業研究 難聴理解授業 題材名「どんなかんじかな」～子どもたちのレジリエンスを育てる～ 授業者 T1 金井あかね先生（院内小学校きこえの教室）T2 小暮 慶先生（院内小学校3年3組担任） 2 協議会 ・子ども達が前時に体験した「補聴器体験」を行ったことで、さらに協議が深まることにつながった。 ＜授業者より＞ T1・難聴児が学級にいないクラスでの授業展開という新しいチャレンジだった。 ・クラスに難聴児がいない環境の中で、少しでも「きこえにくさ」について身近に感じてほしいという願いを込めて行った。 ・担任の先生の願いをくみ取りながら授業をつくっていくことを大切にしたり、話し合いの活動では担任の先生主導で展開したりしたことで、子どもたちのよさが発揮できた授業になったのではないかと感じる。 ・この授業のねらいであった、相手の気持ちが「どんな感じなのかな」ということに思いを巡らせることができていたと感じた。 ・自分の気持ちや考えを表現することで、自分のよさ（レジリエンス）に気がつくきっかけとなったのではないかと感じる。 T2・クラスの実態を思ったときに「相手の立場に立って考える」ということがとても大切と考え、今回の授業に取り組んできた。難聴児に対してだけでなく、友達の気持ちを考えるきっかけになったと感じている。 ・全員が気持ちを表現できる授業にしたいという願いを込めて、ネームプレートを活用した。心が揺れ動く様子もみられ、「相手の立場に立って考える」というねらいに迫る一助となったと感じる。 ・授業を組み立てる段階から2人体制で行えたことがとてもよかった。 ・普段の授業ではみられない子どもたちのよさ（レジリエンス）をみることができ、貴重な時間となった。 ・気持ちを表現する楽しさは感じられたと思うが、実生活に結びつけていくというところまでは難しい様子だったため、ねらいが高かったのではないかと感じた。 ＜参観者より＞ ○難聴について理解するということだけでなく、子どもたちの「心を育てる」というところにもつながっているところに大変感動した。それは、校長先生はじめ、職員の理解がきちんと得られているということや、授業をつくる段階から担任と協力して行ったことがとても大きな要因であると思う。長年の担当者の取り組みの積み重ねの成果だと感じる。 ○本時のように、3年生に対して難聴理解授業を行っていくことが、まさに「基礎的環境整備」になると感じ、大変有効だと思った。 ○発達段階を考慮して、6年生でも理解授業を行うと、さらに深まっていくのではないかと感じる。 ○補聴器体験では机椅子のマットをつけるタイミングを工夫して静かな時に比べて、雑音があるとききとりにくいということが感じられるようにするとさらによかったのではないかと感じる。 ○前時のデシベルの単位の学習では、「何も音を出さないようにしても40デシベル」というところから、日常の生活音について考える等、子どもたちの実生活へとつなげていけるとさらによかったのではないかと感じる。 ＜講師：千葉市養護教育センター主任指導主事 清水範子先生 より＞ ○名前入りマグネットシートを用いたことで、話せない子も話し合いに参加でき、途中で意見が変わった子も認められていた。これを繰り返していくと、3年生でも自分たちで話し合いができるようになる。 ○「明日からの生活にどう生かすか」について考えることは、今回は難しかった。このような授業を繰り返すことで気付いていくものなので、学年に応じた位置づけやめあてを考えてほしい。 ○消音マットを使うことは難聴児への合理的配慮だが、それが他の児童にも良い影響を与えることになると、基礎的環境整備となる。 ○聴覚過敏の児童がいる学級において、合理的配慮を提供する考えと、一人だけ特別扱いするのはおかしいという考えが対立したとき、その解決方法の一つとして、今回のような補聴器体験授業（他者理解）は有効である。どんな障害にも、この授業をアレンジして生かせるとよいだろう。 4 その他 連絡等			
次回例会 9月13日	会場：院内小学校	内容：10月授業研の指導案検討	

D ブロック

D ブロック 6月例会

1 養護教育センター指導主事 森山静香先生より

○個別の教育支援計画と合理的配慮について（総論）

Q1 合理的配慮って？

A1 障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」と享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が、必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの

ポイント ・過度の負担を課さない。

・合理的配慮と基礎的環境整備

Q2 なぜ合理的配慮をしなくてはいけないの？

A2 「障害のある子、ない子がともに学ぶ」共生社会の形成にむけた、インクルーシブ教育システム構築をめざすため

ポイント ・個人モデルから、社会モデルへの移行

合理的配慮は、障害者差別解消法ができたから行うわけではない。世界的な動きや社会要請等からきている。平成18年に国連で「障害者の権利に関する条約」が採択され「共生社会」をつくることが必要とされた。「共生社会」の形成のために行う。

2 千葉市立鶴沢小学校 花城 毅教諭より

私が考える「教育支援計画」の意義

「教育支援計画」策定の過程に意義があると思う。

「平等」のとらえ方が支援や合理的配慮の「質」に影響する。平等は公正さを推進させるために全員に対して同じものを与える。しかしそれが正常に機能するのは、全員のスタート地点が同じ場合に限られる。「公正」さは、人々を同じ機械へのアクセシビリティを確保すること。個人それぞれの差異や来歴は何らかの機会への参加に対し、障壁となる。なので、最初にまず公正さが確保されて初めて平等を得ることができる。どんな支援をするか、どのように相互に承認、共同を高めるか、多様な子がいる場をどのようにつくるかが大切。どんな支援を提供するかを示したものが教育支援計画。

3 グループワーク「合意形成で大事にしたい質問フレーズ集をつくる」

「お子さんとどのような話をしますか？」（コミュニケーションをどの程度とっているか。）

「将来どのような姿になってほしいと思いますか？」（今の課題にばかりにとらわれるのではなく、先のイメージをもって接してほしい。）

「今一番困っていることを3つぐらい教えて」（自分の困り感を正直に出せるか。）

「よくがんばっていることがありますよ。さらに、どんなことをのばしたいですか」（いつも否定的なところに目がいてしまうのではなく、できることを認め、そこから成長点を見出す。自己肯定感）

4 次回 9月11日（火） 「LD体験」 小倉小学校 今関 裕恵先生

市教研 特別支援教育部会 8月例会

講演会

コミュニケーションとしての音楽 ～音楽療法士の実践から～

講師：益山ゆき（ますやま ゆき）氏

社会福祉法人まつど育成会センター長 音楽療法士

東京音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。千葉県内の養護学校（現特別支援学校）教諭を経て、多くの障害者施設、高齢者施設の音楽療法を行う。ピアノ語とも呼ばれる独特な即興演奏が持ち味。ニューヨーク大学付属ノードフ・ロビンズ音楽療法センター提携クリニカルスーパービジョンプログラム修了。北里大学看護専門学校非常勤講師、千葉県立習志野特別支援学校特別非常勤講師、柏市立旭東小学校特別非常勤講師、日本音楽療法学会認定音楽療法士。

日 時 平成28年8月17日（水）

午後2時～4時30分（受付 午後1時30分～）

会 場 千葉市ハーモニープラザ イベントホール

住所：〒260-0844

千葉市中央区千葉寺町1-208

Tel : 043-209-8771

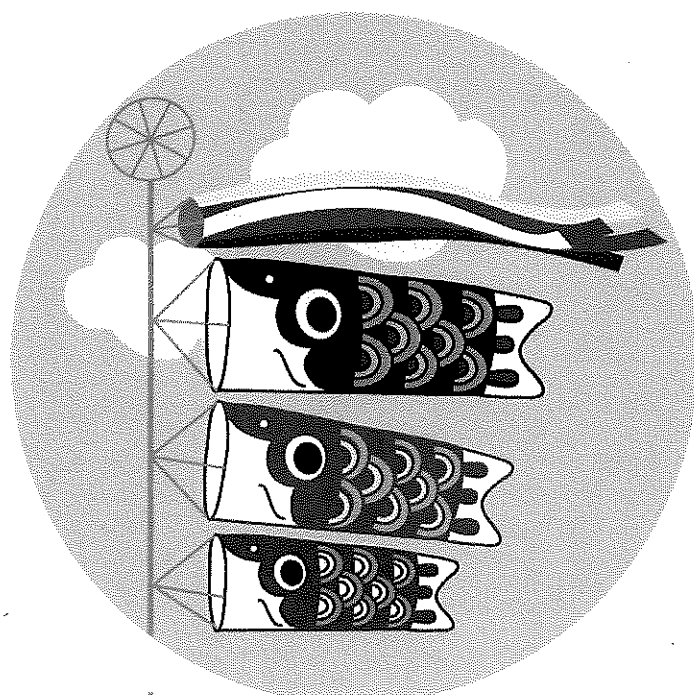
持ち物 なし

※ 駐車場の台数が限られておりますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

特別支援教育部会

平成28年度

5月例会報告



A-1 ブロック

参加人数	4 4 名				
今回5月例会	協議内容	1 自己紹介（学校毎、経験年数を発表）			
		2 研究テーマ「楽しい授業を作るための支援・指導の工夫」			
		3 年間計画（案）			
		日時	内容	会場	講師
		6/21(火)	授業研	長作小学校 深堀靖子教諭	あやめ台小学校 宮澤校長先生
		9/13(火)	教材教具の紹介	あやめ台小	あやめ台小学校 宮澤校長先生
		10/18(火)	特別支援学校の教育課程、授業内容等について	第二養護学校	
		11/15(火)	授業研	打瀬小 島尾秀美教諭	あやめ台小学校 宮澤校長先生
		1/17(火)	施設見学	畑町ガーデン	
		4 授業研に求めるものについての意見交換			
○（特に若い先生のために）授業の組み立て方、どういう工夫、教材教具があるかを見せる					
○スモールステップ化した段階別評価について					
○日生と生単が混同してしまう					
○若い先生が何に困っているのか整理した方がよい					
○実態が離れている時にどうしたらよいか、年間の計画も知りたい					
○T1、T2の動き方、全体でやる場面とグループでやる場面の組み合わせ方					
5 その他					
・ 6月例会の研究授業の指導案検討は行いません。					
・ 11月例会の研究授業の指導案検討については、後日お知らせします。					
次回月例会	会場	千葉市立長作小学校 ※ 極力公共の交通機関をご利用ください。			
	内容	授業研究			

A-2ブロック

A-2ブロック		5月例会	参加人数 55 人	会場：養護教育センター	
1 自己紹介					
2 ブロックのテーマ 「楽しい授業を作るための支援・指導の工夫」					
3 年間計画					
日時	活動内容	会場	助言者の所属と氏名		
6月21日（火）	事例報告 交流及び共同学習の進め方	千城台北小学校			
9月13日（火）	施設見学（放課後支援施設） ※区ごとに分かれて参観予定	中央区 ・ノビルキッズ ・みらい工房 緑区 ・中野学園 ・プリングアップ 若葉区 ・サンタクロース			
10月18日（火）	指導案検討	土気小学校			指導課 指導主事 峰 成治先生
11月15日（火）	授業研究	土気小学校			指導課 指導主事 峰 成治先生
1月17日（火）	県教研の報告 教材・教具の冊子配布 （年内に教材教具の実践を昨年度のように各校1枚提出してもらい、冊子にする予定）	松ヶ丘小学校			
4 その他					
本年度 A・2 ブロックは県教研提案担当です。みんなで情報交流をし、協力し合いながら、より深い報告ができるようにしましょう。よろしくお願いします。					
次回 6月例会		場所：千城台北小学校 (体育館)	内容：事例報告 交流及び共同学習の進め方		
		・上履き持参をお願いします。 ・できる限り公共交通機関を利用するか、車の場合は乗り合いをお願いします。			

B ブロック

Bブロック		報告者	石渡 高生																										
		参加人数	24 人																										
		会場	養護教育センター 研修室																										
今回 5月例会 5月17日	研修 内容	○平成28年度の活動計画の検討																											
		・次年度（平成29年度）にBブロックが県教研の担当となっているため、今年度から授業検討を含めた計画を提案した。提案内容については承認されたので、講師や会場等の調整を行っていく。																											
		○研究テーマ 「個々の能力に応じた表現力を育てるための支援の在り方」																											
		○年間計画																											
		<table><tr><th>月日</th><th>内 容</th><th>会 場</th><th>助 言 者</th></tr><tr><td>6月21日（火）</td><td>協議 ・高等特別支援学校の卒業生の進路について ・地域別情報交換</td><td>真砂中学校</td><td>高等特別支援学校 教員</td></tr><tr><td>9月13日（火）</td><td>施設見学</td><td>サポート校 （2校）</td><td></td></tr><tr><td>10月18日（火）</td><td>授業研究 教諭 山本 雅子</td><td>犢橋中学校</td><td>未定</td></tr><tr><td>11月15日（火）</td><td>授業研究 教諭 藤村 渉</td><td>松ヶ丘中学校</td><td>未定</td></tr><tr><td>1月17日（火）</td><td>協議 県教育研究会に向けて</td><td>未定</td><td>養護学校 校長 黒川 章子</td></tr></table>				月日	内 容	会 場	助 言 者	6月21日（火）	協議 ・高等特別支援学校の卒業生の進路について ・地域別情報交換	真砂中学校	高等特別支援学校 教員	9月13日（火）	施設見学	サポート校 （2校）		10月18日（火）	授業研究 教諭 山本 雅子	犢橋中学校	未定	11月15日（火）	授業研究 教諭 藤村 渉	松ヶ丘中学校	未定	1月17日（火）	協議 県教育研究会に向けて	未定	養護学校 校長 黒川 章子
		月日	内 容	会 場	助 言 者																								
		6月21日（火）	協議 ・高等特別支援学校の卒業生の進路について ・地域別情報交換	真砂中学校	高等特別支援学校 教員																								
9月13日（火）	施設見学	サポート校 （2校）																											
10月18日（火）	授業研究 教諭 山本 雅子	犢橋中学校	未定																										
11月15日（火）	授業研究 教諭 藤村 渉	松ヶ丘中学校	未定																										
1月17日（火）	協議 県教育研究会に向けて	未定	養護学校 校長 黒川 章子																										
次回 6月例会		日時・・・6月21日（火）																											
		会場・・・千葉市立真砂中学校																											
		内容・・・情報交換会（千葉市立高等特別支援学校卒業生の進路状況について 地域別の事例検討																											

Cブロック

Cブロック	5月例会	参加人数 34人	会場：市教育会館																								
1 28年度のブロックテーマと研修計画について ・ブロックテーマ 「子どもの実態の捉え方とよりよい指導のあり方」 ・28年度の研修計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>活動内容</th><th>会場</th><th>助言者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月21日(火)</td><td>・授業研究① 院内小 きこえの教室 金井 あかね 先生</td><td>院内小学校</td><td>養護教育センター 清水 範子 先生</td></tr> <tr> <td>9月13日(火)</td><td>・指導案検討 幕張小 ことばの教室 大岩 恵子 先生</td><td>院内小学校</td><td>未定</td></tr> <tr> <td>10月18日(火)</td><td>・授業研究② 幕張小 ことばの教室 大岩 恵子 先生</td><td>幕張小学校</td><td>未定</td></tr> <tr> <td>11月15日(火)</td><td>・未定</td><td>未定</td><td>未定</td></tr> <tr> <td>1月19日(火)</td><td>・情報交換</td><td>高洲三小学校</td><td></td></tr> </tbody> </table> 2 その他、情報交換など ・県特連夏季研発表者について ・千葉市ことばを育てる会より ・研修、吃音講習会について					活動内容	会場	助言者	6月21日(火)	・授業研究① 院内小 きこえの教室 金井 あかね 先生	院内小学校	養護教育センター 清水 範子 先生	9月13日(火)	・指導案検討 幕張小 ことばの教室 大岩 恵子 先生	院内小学校	未定	10月18日(火)	・授業研究② 幕張小 ことばの教室 大岩 恵子 先生	幕張小学校	未定	11月15日(火)	・未定	未定	未定	1月19日(火)	・情報交換	高洲三小学校	
	活動内容	会場	助言者																								
6月21日(火)	・授業研究① 院内小 きこえの教室 金井 あかね 先生	院内小学校	養護教育センター 清水 範子 先生																								
9月13日(火)	・指導案検討 幕張小 ことばの教室 大岩 恵子 先生	院内小学校	未定																								
10月18日(火)	・授業研究② 幕張小 ことばの教室 大岩 恵子 先生	幕張小学校	未定																								
11月15日(火)	・未定	未定	未定																								
1月19日(火)	・情報交換	高洲三小学校																									
次回例会 6月21日(火)	会場：院内小学校	内容 授業研究の提案①																									

D ブロック

Dブロック	5月例会	参加人数：22名	会場：高浜海浜小
-------	------	----------	----------

年間の研究計画作成

1 自己紹介

2 昨年度までの研究の経過

3 今年度の研究について

(1) 特別支援教育部会研究主題

「特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の理解と指導のあり方」

(2) Dブロックのテーマ

昨年度のテーマから引き続き

「子どもの行動の捉え方とよりよい支援のあり方」

(3) 年間計画

日 時	内 容	会 場
6月21日	個別の教育支援計画の策定と合理的配慮 養護教育センター 森山 静香 先生 鶴沢小学校 花城 毅 先生	養護教育センター
9月13日	LD 体験 小倉小学校 今関 裕恵 先生	養護教育センター
10月18日	施設見学 千葉県立泉高等学校(アクティブスクール)	泉高等学校
11月15日	事例紹介ー成功した実践事例について紹介ー (LD、ことば、支援学級) 持ち寄り	養護教育センター
1月17日	年間のまとめ 次年度の方向性について	養護教育センター

(4) 年間講師 宮野木小学校 校長 吉岡 龍子 先生

4 その他

○ 6月例会アンケート

○ 市教研 HP のお知らせ

次回：6月例会	会場：養護教育センター	内容： 個別の教育支援計画の策定と合理的配慮
---------	-------------	------------------------